

札幌で震度7の大地震が発生すると 最大8千人以上が命を落とす

厳冬期の札幌で震度7の大地震が起これば、凍死者も含めて最大8,234人が死亡すると予測されています。大地震が起きたとき、何よりも大切なのは、まず、身を守ることです。

札幌市で震度7の直下型地震が起きた場合の最大被害予測

死者 **8,234**人 負傷者 **34,395**人 倒壊家屋数 **112,461**棟

※数値は平成20年度札幌市防災会議で定められた第3次地震被害想定に基づく

身を守るには事前の準備が大切

自宅での備え

平成7年に起きた阪神・淡路大震災では、倒壊した建物や倒れた家具による「窒息死」「圧死」が死亡原因の約9割を占めました。このことから、家具と建物への対策が重要であることが分かります。

家具

基本 大型の家具は固定する

大地震が起これば、大型の家具は、転倒や収納している物の飛び出しにより、人を傷つける凶器になります。ホームセンターなどで売っているL字の金具や突っ張り棒などでしっかりと固定しておく必要があります。



重い物は下に、軽い物は上に収納

家具の上部に重い物を入れると、不安定になり、家具が転倒しやすくなるので危険です。重い物は下に入れ、家具の安定感を高めましょう。収納物に応じて、棚板の高さを変えられる家具がおすすめです。



建物の耐震化

住居が地震に耐えうるかの確認を

昭和56年5月以前に建てられた住居は、旧耐震基準が適用されているため、倒壊の危険性が高くなっています。自宅に倒壊の危険はないか、専門家による耐震診断を受けてみてはいかがでしょうか。



木造住宅の耐震化費用を補助します

昭和56年5月以前に建てられた木造住宅を対象に、耐震診断・設計・工事の費用を補助する制度があります。詳しい条件や申し込み方法などは下記にお問い合わせください。

補助金額	診断	設計	改修
	費用の2/3を補助(限度額3万円)	費用の2/3を補助(限度額10万円)	費用の23%を補助(限度額40万円)

詳細 建築安全推進課 ☎211-2867

行動を想定しておこう

急に地震が起きたとき、慌てることのないように、自分がとるべき行動を想定しておくことも大切です。

地震が起きたら…

1 机の下などで揺れが収まるまで待つ



2 火を消す



3 ドアを開けて避難経路を確保



できれば

火災を防ぐため、ガスの元栓を閉め、電気のブレーカーを切って避難場所へ